

関西教育博覧会の開催と大阪の名家

中野 朋子

要旨 大正二年（一九一三）夏、天王寺公園で「関西教育博覧会」が開催された。この博覧会は「教育」を主題とした日本で初めての博覧会であるものの、これまでの博覧会研究においてはほとんど注目されることがなく、したがって同博覧会に関する研究や報告は皆無である。本稿では、地方に活動の根幹を置いた「名家」が各地の美術工芸振興や博覧会の開催にあたってどのような役割を果たしたのかについて調査を進めていくなかで明らかとなった「関西教育博覧会」の開催経緯や運営組織、展覧事業の概要について報告するとともに、同博覧会の開催にあたって大阪の「名家」がどのような関わりを持ったのかについて言及した。

はじめに

明治三十六年（一九〇三）三月一日から七月三十一日にかけて、大阪天王寺で第五回内国勸業博覧会（以下「第五回内国博」と表記）が開催された。会期は百五十三日間、入場者数四百三十五万六千九百九十三人を記録した。第五回内国博の天王寺会場内には、農業館、林業館、水産館、工業館、機械館、教育館、美術館、通運館、動物館、台湾館、参考館が、堺には第二会場として水族館が建設された。第五回内国博開催に際して茶臼山に設けられたウォーターシュート（飛艇戯）やメリーゴーラウンドといった遊具、パノラマ世界一周館や不思議館、大曲馬などの見世物も人気を博した。ま

た第五回内国博では、内国博史上はじめて夜間に会場内をライトアップし、夜間開場を実施、本格的な電力時代の到来を示す事柄として大人気となった⁽¹⁾。そして、第五回内国博終了後、常設の展示場として建設された天王寺公園内の各施設を利用したさまざまな博覧会が開催されるようになる。本稿で取り上げる「関西教育博覧会」（以下「教博」と表記）は、大正二年（一九一三）に天王寺公園で開催された博覧会のひとつで、「教育」にテーマを絞った独自の展示内容が注目を集め、また七月十五日から八月十五日までの学休期間内の開催も功を奏し、開催日数三十日間の入場者数は四十四万人を超えたという⁽²⁾。しかし、当時は各界から注目され多くの入場者を集めた教博も開催から百年以上を経過した今日ではその開催実

態はおろか、その開催経緯についても論じられることはない。

筆者が教博の存在を認識したのは、鴻池合資会社資料室に保管されていた鴻池家所蔵品の出陳記録によってである。昭和七年（一九三二）十一月の昭和天皇による大阪行幸と行在所における美術品等の天覧事業に関わる調査の際に、「明治三十六年一月調 博覧会出品扣」（鴻池合資会社資料室蔵）中に、教博へ鴻池家から複数の史料が出品されていること、別に、同博覧会の「婦人館」へ服飾品が出品された記録が残されていることが判明した⁽³⁾。調査時は「関西教育博覧会」の詳細が把握できず、しかも教博における「婦人館」の機能についても認識していなかったため教博に関する報告を行えなかったが、その後の調査によって、教博の実態についても把握することができたため、「教育」を主題とした日本で初めての博覧会が大阪で開催された経緯とその運営組織、展観事業の概要を報告するとともに、同博覧会に大阪の「名家」がどのような関わりを持ったのかについて考察していく。

一 関西教育博覧会の開催と運営組織

まずはじめに、教博の概要を大阪毎日新聞の記事ならびに大正二年八月に発行された案内書『関西教育博覧会記念』⁽⁴⁾からまとめると次のようになるだろう。

開催期日…大正二年七月十五日から八月十五日まで

会場…大阪 天王寺公園内の一部（約一万四千坪）《写真①》

主催者…大阪市教育会

入場者数…四十四万六二〇〇余人⁽⁵⁾

教博は日本で最初に開催された教育博覧会で、出品者は一二一人、出品数は一万九六〇〇余点、入場者数の実数は四十四万六二〇〇余人に及んだという。

『関西教育博覧会記念』の著者・大久保透による序文によれば、教博は名こそ「関西」という二文字を冠した博覧会事業であるものの、博覧会の内容は日本の教育博覧会と呼ぶべき規模であるとし、会場には「天下の珍品」が集められ、教育の専門家はもとより、国民の教育にも裨益する内容となっていたのだという。また同書には、教博を主催した大阪市教育会は、他府県の教育会が教育当事者のみで組織された「一種の教育職務会」であることとは異なり、教育当事者に加え、大阪府知事、市内各官公衙の長官、実業家、代議士、府市名譽職、新聞記者で組織されていること、しかも教育関係者は大阪市内における官公立の小中大学校長に限られていたこと、それ故に会の目的も教育当事者の教育には止まらず、教育行政に冠する各般の調査研究、ならびに教育に関する会そのものの意見を発表して世に問うなどの活発な活動が展開されたことが報告されている。大阪市教育会は「大阪市の市是と認めたらば何処々々までも躊躇なく猛進して其所論を透徹せんことに活動する」といい、これが「大阪市教育会の生命であつて、而も他に其類例を見ない特長である」とされている。大阪市教育会もとは各府県の教育会と同様に教育当事者の教育を主眼とする会であつたものを改革して右記のごとき大阪市独自の組織として再編、大阪市の学制統一問題や大学の設置問題、市民教育講習会の主催などに取り組むこととなつたともいい、こうした組織改革が教博開催の契機のひとつもなつたよう⁽⁶⁾。

大阪市教育会によって教博の開催が発議されたのは明治四十四年

(二九一一)のことで、同年春の教育会理事會において、同会理事長であった大阪毎日新聞社々長の本山彦一(一八五三—一九三二)が発議、翌四十五年(一九二二)晩春に評議員会の協賛を得て準備を開始したが、この年七月三十日に明治天皇が崩御したことによって中断、重ねて大阪市における学制統一問題が生じたことで延引を余儀なくされたが、大正二年七月、ついに「教育を標榜せる通俗的大博覧會」として開催された。

開催時における教博の役員⁽⁷⁾は以下のとおりである。

会 長	大阪市長	男爵	肝付兼行
副会長	大阪朝日新聞社長		村山龍平
	大阪毎日新聞社長		本山彦一
顧問	第四師団長		大迫尚道
	大阪府知事		大久保利武
	男爵		住友吉左衛門
	男爵		藤田平太郎
	男爵		鴻池善右衛門
	京都大学総長		久原躬弦
	京都府知事		大森鐘一
	兵庫県知事		服部一三
	奈良県知事		若林資蔵
	和歌山県知事		川村竹治
	滋賀県知事		佐柳藤太
	京都帝国大学総長		澤柳政太郎
	奈良県知事		折原正一郎

ほかに百一名に及ぶ評議員と百五十二名の賛助員の名が列挙されている⁽⁸⁾。また教博は(一)本館、(二)子供館、(三)青年館、(四)婦人館、(五)売品館という、五部構成とされ、それぞれに委員長を選任、委員長のもとに必要に応じて複数の専門委員を置いている。各館の会場内における配置については《会場略図》を参照いただきたい。

二 「教育」を主題とした博覧會開催経緯と

独自性の強い展観事業

ところで「教育」を主題とした博覧會事業の目指すところとはどのようなものであったのか。『関西教育博覧會記念』の総説には「国民を教育し、社会を教育する方法に関しては勿論種々の形式を存するのであって必ずしも学校に於て書物を読み、字を書くのみが教育の本旨ではない」と前置きをした上で「進歩せる新しき製作品を見、又一面に於て参考として最も古き幼稚なる製作品を相対象して見るべき博覧會の如きは最も完全せる不遍的国民教育の大宗とも云ふべきである」とされている。そして教育博覧會は「決して教育品のみに限らるべきものでなく、只其主催者が他の各府県教育会と大に其毛色を異にせる大阪市教育会であるのと、其陳列品の主体が教育品若くは教育参考品であると云ふの外、他の出品物は毫も通常の博覧會と相異なる点はない」と宣言し、教博の目的を「一般社会国民教育の目的に向かつて貢献せんとする」博覧會であり、教博開催以前にも各地で開催されていた「教育品展覧會」や「共進會」とは異なる「教育の名を冠したる通俗的博覧會」としての開催が企図された。そのため、学校教育で使用されるいわゆる学用品以外に、家庭用品やその他参考品も包括的に展

示されたのであった。

同書「教育博覧会開催由来」によれば、教育を主題とした博覧会を開催し、何を陳列するかという点「単に学校生徒の成績品や製作品の如き、乃至は専門的の統計図画類等の如きもののみでは」専門家は学びの場になるだろうが「素人観覧者に取りては恐らく之れほど無味乾燥視せらるるものは」ないと断じ、そのため教博の開催に当たっては、多くの観覧者の耳目を喜ばすとともに「智能を啓発せしむるに足るべき種々の珍品を蒐集することに腐心した」のだともいう。これは「文部省からの出張官たる柵橋博物館長」が「総て教育という名に拘泥しては面白くない、教育の大目的に背反せない限りは成るべく観者の肩を凝さぬ様にして面白く博覧会を見せ、自然に興味を喚起せしむる様にしが肝要だ」と助言したことにも因るとされている。

以上のような目的を達するため、教育面での展示はもちろん、一般国民も遍く楽しめる娯楽的な要素も併せ持った、趣向を凝らした教育博覧会の開催が企図されることとなったのである。以下、各展示部門の概要を、展示館毎にまとめておく。

○本館

各種教育の系統発達、通俗教育に関する多方面の資料を収集陳列

【女関】

- ・大阪商船会社出品 客船模型「観光丸」
- ・三越呉服店内大阪子供研究会出品 理想の子供室と子供用品
- ・京都島津製作所出品 教授用無線電信機
- ・同製作所出品 シベリアにおける猛虎の棲息状態（虎の剥製展示）

【専門教育部】

- ・大阪府立高等医学学校出品の各種医療模型などのほか、全国の大学・高等学校・中等学校その他の専門的學校など計四十校が出品した写真・図表・統計製作品など多数。

【通俗教育室】

本館の主要展示室として位置づけられている。

- ・京都島津製作所出品の標本類・理化学器械・各種模型など。ほかに実験の見学実施多数。キュリー夫妻の幻燈映画も上映された。
- 目玉はトラ、ペンギン、オーストラリアの有袋類カモノハシ、アメリカで捕獲されたハミングバードの剥製など世界中から集められた動物剥製の展示と人体模型の展示、電気関連の新技术（電磁石・蓄電池・発動機など）の紹介展示。
- ・山越工作所出品の生理人体模型・医療器械など。ほかにライオンの剥製も出品。

【学会部・官衙部】

- ・農商務省出品 富士山模型（八畳敷）
- ・朝日新聞社史の展示
- ・内務省地質調査所 鉱物標本・地質図
- ・考古学会、人類学会 考古的発掘物
- ・震災予防会 地震関連展示 など

【明治教育記念室】

- ・文部省出品 柵橋源太郎帝国博物館長監修の明治天皇関連品の展示・明治の教育変遷の紹介

【大阪商工立志資料室】

大阪府知事・大久保利武の監修による展示など(第三章で詳述する。)

【実験用暗室】

- ・鳥津製作所のラボ 真空管や電気実験など多彩な実験が実見できる

【普通教育部】

市内及び近府県の幼稚園から各種学校までの出品作品を陳列

【本館屋外の無線電話】

大正元年に発表された通信省式無線電話機による通信実験

【本館附属実験館】

大阪市役所電気鉄道部、市立大阪工業学校などによる「火と水と風」とに
関する各種実験の実施(発電、噴水、扇風機を用いた吸排気などの実践実
験を含む)

○附属館

【子供館】

- ・淡水魚の展示水槽、庭園内に大鳥籠や水鉢を置いて小鳥や水禽を放つ。
- ・子ども向けの各種人形展示のほか、玩具などの展示
- ・子ども用及び教授用具、文房具など
- ・市内、他府県の幼稚園等の学校から出品された児童の成績品等の陳列
- ・朝日新聞の辻村氏による理想の子供室に関する展示

【青年館】

- ・青年すなわち中学教育以上の参考品がほとんどで、学校出品としては、
旅順工科学堂製作の器械のみ
- ・教授用器具機械が多数を占める
- ・市立大阪衛生試験所出品の「煙草の害」の展示を紹介

・鳥津製作所出品の歴史人形の陳列

・各種中等学校以上の学校の成績品、製作物の陳列

・瀧を利用した発電と電灯の点灯

・三木楽器店ほかから出品の「娯楽器具」など

【婦人館】《写真②》

・グリーンハウス、香水の噴泉、音楽堂の設置

・三越呉服店出品の明治三十五年(一九〇二)以来の流行色の変遷

・同店出品の美術印刷物の系統的変遷の展示

・私立精算美術学院出品の意匠図案

・婦人風俗人形、婦人衣裳の新図案くらべ

・「名のある各家の秘鳥(ホトトギスやウグイスなど)」を館内各所に配し
て鳥の声を愉しむ趣向に加え「女学生と養鳥」「婦人と花卉」というテ

ーマで館内を統一

・各女学校の手芸品、成績品の陳列

・婦人風俗、雛人形および道具、古代婦人風俗の展示

・家庭、育児、衛生等の参考品の陳列

・東京教育博物館出品の欧米教育参考室

・三越呉服店出品の西洋婦人室、現代婚礼用品の参考陳列

その他の展示については第三章で後述する。

【売品館】

・書肆、文房具店など教育関連売店二百余店舗を設置

○各種別館

【飛行機館】

・陸軍省から「グラード式単葉飛行機」が出品、七月二十七日には飛行機デーが開催⁹⁾

【武石飛行機館】

・大阪朝日新聞社出陳。民間の飛行家で、大正二年五月三日に飛行機事故で事故死した武石浩波の記念館として陳列。武石氏の愛機（のちの白鳩号）を出品

【天文室】

・遼東新報社の休憩所に、望遠鏡や夏の星座の天井図を設置

【測候室】

・大阪測候所が各種測候器械を設置、公開

○夜会

・附属館のみ夜間開場の実施

・会場内各所に電飾の装飾

○諸会と余興

・集會場で、昼間は教育的な各種の講演会、夜間は余興的催しものを実施

（新聞記事）

○大阪毎日新聞社出品の新聞製作順序

○「野天の活動写真」大阪毎日新聞社主催

○緒方婦人科病院の出品物 婦人科関係の出品物

○宝文館器械部による電車運転

・子供館の関連行事として附属館の中庭で実施。総延長二百尺の線路を敷設し一尺ほどの小型電車を走らせる

○場内日報の発行 中村文司主宰による

三 展観事業への大阪の名家の関わり

教博では本館の展示のなかに大阪府知事・大久保利武の監修による「大阪商工立志資料室」が設けられた。同資料室の展示内容については大正二年九月刊行の「商工立志資料」によってその展示内容を知ることができる¹⁰⁾。同書に大久保大阪府知事が寄せた序文によれば、教博の開催にあたり「大阪商工家ニシテ名ヲ成シ家ヲ興シタル故人ノ立志時代ニ於ケル勞苦ヲ偲フニ足ルヘキ物及ヒ故人ノ手ニ成レル家憲、家訓、遺墨ノ外写真肖像画並ニ各種ノ遺愛品等ヲ一室ニ陳列シテ之ヲ立志資料室ト名ケ以テ後進奨励ノ一助ヲラシメン」として開設された展示室であるという。商工立志資料室への出品に応じた家は総計二十家、ほかに大阪高等商業学校所蔵品、堺市役所所蔵品、懷徳堂関連品も陳列された。出品の明細については《商工立志資料室出品明細表》を参照いただくこととし、ここで本稿の冒頭で紹介した鴻池合資会社資料室所蔵の「明治三十六年一月調 博覧会出品扣」の教博への出品記録を振り返っておこう。

〔上部割書〕

大正二年七月／十五日より天王寺公／園内ニテ開會／之大阪市教育／會主催関西／教育博覧會／エ大阪府知事／大久保利和様／之懇請ニ寄／出品ス／大阪府庁より／品受取ニ／参ラレ渡ス

〔出品品目〕

一 二代御当主宗信公腰差

箱ナシ袋入 壹腰

（朱書）同八月十七日戻ル

- 一 四代宗誠公御家訓 (朱書) 同前 壹冊入 壹箱
 - 一 惣寄合申合書 (朱書) 同前 壹帙
 - 一 新田開墾地図掛物(二幅之内大之■) (朱書) 同前 壹幅 壹箱(仮箱)
 - 一 四代宗誠公御文掛物 (朱書) 同前 壹幅 壹箱
- 〔次頁〕 計五点 (朱書) 無事同八月十七日二戻ル

〔上部割書〕

前同断

婦人館／婦人部／出品但是ハ／同委員江戸／堀高等女学／校長畠田／繁太郎氏へ渡ス

- 一 襦褌三枚 金蒔画文庫二入
- 但 樺色地紋綸子壹枚 熨斗目織朱子腰熨斗目壹枚
- 紋綸子疋田絞縫壹枚 〆三枚
- 一 御定紋散シ金蒔絵衣桁 壹組入 壹箱
- 〆襦褌入文庫共合テ参点 (朱書) 無事同八月十八日戻ル

拙稿ですでに指摘したとおり、本史料の割書において「大久保利和」と記されている人名は正しくは大久保利武(一八六五～一九四三)である⁽¹¹⁾。大久保は第十四代大阪府知事として一九一二年十二月三十日から一九一七年十二月十七日まで在任するとともに教博の顧問としても活動した。また「博覧会出品扣」の記載品目は「商工立志資料」掲載の鴻池家出品資料のそれと合致している。鴻池家側としては、大阪府知事であった大久保利武

の懇請に応じる形で五点の史料を出品するに至ったという経緯が読み取れるものである⁽¹²⁾。なお、「博覧会出品扣」には貸出日についての記載はなく、教博終了後の八月十七日に返却された旨の朱書が添えられる。

「博覧会出品扣」には、商工立志資料室への出品記録に続き「婦人館婦人部」に「襦褌三枚」を「文庫」に入れて「定紋散シ金蒔絵衣桁」とともに出品した記録も残る。出品物は女物小袖二領と男物熨斗目小袖一領の計三領⁽¹³⁾と考えられ、これらは婦人館参考部委員で大阪府立江戸堀高等女学校の校長であった畠田繁太郎⁽¹⁴⁾へと渡し、会期終了後の八月十八日に返却された旨の朱書が残る。

婦人館の展示については大正二年七月十五日付の「大阪毎日新聞」にも次のように紹介されている(傍線は筆者)。

●華実備はる婦人館 綺麗な裡に実のある陳列

天王寺公園の関西教育博覧会は愈十六より開館する、門を入れて突当たり青年館の二階が今度の博覧会中最も華を飾る婦人館で楷子を上るとグリーンハウスといふ青葉の屋根の室があつてその下にはコンクリートの泉水があり中央に高く聳えた水盤から香水二石を使用したといふ香水の噴水が清香を放ちながら落ち、横手には三木楽器店出品の自動ピアノが絶えず西洋の新曲を奏で壁には正面に三越呉服店出品の明治初年以来の流行色、左右には精華美術学校女生徒の図案、まるッ切り極楽の開業式のやうだ 其処を右に取れば市内及び府下の各女学校、裁縫学校の成績品、中に夕陽丘女学校のは本社新年附録より意匠したといふ先帝の御製を出した金屏風がある 婦人に好参考となるべきものは硝子戸棚に飾られた鴻池家出品の襦褌で百五十年も前の物のさうで非常にあでやかなも

のだ、赤十字病院出品の胎児の發育を四週間目より九ヶ月まで月毎にア
ルコール漬の実物を出陳したのは誠に珍らしく山越氏出品の小児便は健
康便、草綠色便、赤痢便、腸加答兒粘液便其他を実物同様に製作して見
せたのは其隣なる麻疹及猩紅熱にかゝりたる二個の小児模型人形と共に
子を持つ親には最も好参考品でいろいろ重宝なものが多いやうだ

記事では、鴻池家が出品した「百五十年前の」襦袢は「非常にあでや
かなもの」として紹介されている。婦人館のガラスケースを多用した陳列
の光景自体も注目を集めたやうで、『関西教育博覧会記念』には「婦人館
の陳列振りは全部硝子の見透しであるから、数百の電灯燦として昼を欺か
んばかりの夜の光景に至っては、又一入の風情があつて真に一種の水晶殿
とも云ひ得るやうな心地がする」とも評された。

教博に鴻池家をはじめとする大阪の「名家」が出品協力を行なう背景に
は、明治八年（一八七五）四月、江戸時代に西町奉行所が置かれていた場
所に設置された博物場の存在が大きな役割を果たしたと考えられるだろう。
博物場は、明治十七年（一八八四）には府立大阪博物場と改称、以後敷地
を拡げ事務所、陳列所、美術館、動物園などを併設、宮内省御物や寺社宝
物の展観などを盛んに行つており、¹⁵名家の所蔵品が多く出品された。こ
うした事業の積み重ねが、効を奏したのか、昭和八年（一九三三）およ
び九年（一九三四）に昭和天皇による大阪行幸を記念し、大阪府立貿易館
において大阪博物場と大阪商工協会の共催で「臨幸記念名家秘蔵品展覧会」、
「第二回 臨幸記念名家秘蔵品展覧会」が開催され、出品物は一般の観覧
に供された。第一回目の「臨幸記念名家秘蔵品展覧会」には、村山龍平氏、
上野精一氏、野村徳七氏、山口吉郎兵衛氏、藤井善助氏、男爵鴻池善右衛

門氏、阿部房次郎氏、弘世助太郎氏、男爵住友吉左衛門氏（掲載順）の九
家と博物場が二百点を超える所蔵品を出品し、昭和八年二月十日より十六
日までの公開期間中に三千名を超える観覧者を得て「社会を裨益し文化に
貢献せし処のもの頗る大であつた」とされる。翌年に開催された「第二回
名家秘蔵品展覧会」は、磯野家、野村家、山口家、藤井家、鴻池男爵家、
阿部家、弘世家、住友男爵家（掲載順）の八家と博物場が出品した。同展
の開催にあつては「前年の諸名家その他につき重ねて秘笈を開かれんこ
とを懇望し」「展覧品は何れも門外不出の稀宝珍玉であつて、光彩陸離、
東洋芸術の精華を一堂に蒐展するの盛観を呈し」、大阪という「商工都市
に於ては容易に求め難き文物観賞の機会を重ねて提供し得た」と報告され
ている。¹⁶

結び

大正二年夏に天王寺公園で開催され、四十四万人を超える入場者を得た
「関西教育博覧会」において、大阪の名家が関わりを持ったのはおもに二
つの側面からである。第一には、博覧会事業全体の運営にあつて、鴻池
善右衛門、住友吉左衛門、藤田平太郎の三男爵が顧問に就任している。こ
れは、明治四十四年（一九一一）に「男爵」となった三家を、大阪を代表
する「名家」として招じたかたちである。¹⁷

第二には、大久保大阪府知事が自ら企画した「商工立志資料室」への出
品に先述の三男爵家に加え複数の名家が協力したことである。これらは、
教博が博覧会という一般大衆向けの企画でありながら、日本で初めて「教
育」を標榜する博覧会として開催された意義を受け止めてのことであろう。

また家々に伝来した「秘したる家憲も、珍藏せる書類等」⁽¹⁸⁾についても出品が実現した背景には、「大阪商工家ニシテ名ヲ成シ家ヲ興シタル故人ノ立志時代ニ於ケル勞苦ヲ憫フニ足ルヘキ」品々を陳列し「後進奨励ノ一助」とするため⁽¹⁹⁾に大阪府知事自らが交渉にあたるなど、名家にとつては協力あるいは出品するに相応しい好条件が整ったことも後押ししたと考えられる。

協力した家々としては、家伝のいわば「家の宝」ともいえる所蔵品を教博に出品し広く一般に展観することによって、教育に対する理解の深さをアピールすると同時に大阪の「名家」として認識されることを期待したものと考えられる。これら一連の「名家」としての活動そのものが、現代でいうところの「メセナ (mecenat)」⁽²⁰⁾、つまりは社会貢献活動の一環と認識されていた可能性もあるだろう。

「博覧会の世紀」とも称されるほど頻繁に博覧会が開催された明治時代には、日本の美術工芸品は世界から広く注目を集めた。昭和戦前期になると美術工芸品は外貨獲得のための主要輸出品として扱われ、それらを展示する機会は共進会などへと変化した。この移行過程にあった大正時代の、しかも地方における美術工芸振興や博物館施設での展観事業への取り組みについて研究する動きは決して活発とはいえない。

そこで筆者は、大阪を中心とした地方に活動の根幹を置いた「名家」が大正時代から昭和初期にかけて、各地の美術工芸振興や展観事業にどのような関わりを持ったのかに注目して調査を進めている。その過程において、我が国で初めて開催された「教育博覧会」の存在と展観事業の在り方、そして同博覧会を開催するにあたって大阪の「名家」が果たした役割について報告することになった。こうした地方における展観事業の開催と運営に

あたつては、各地に拠点を置く「名家」が協力・助力するという構図が、昭和初期以後も形態を変えつつ引き継がれていく⁽²¹⁾と考えているが、その報告については稿を改めるものとした。

末筆となりましたが、本稿の執筆にあたり、貴重な作品の調査を許諾いただきましたご所蔵者各位に深謝いたします。

本稿は、JSPS科学研究費15K12830の助成を受けた研究成果の一部です。

註

(1) 『第五回内国勸業博覧会記念写真真帖』(玉鳴館、一九〇三年) ほか

(2) 入場者数については『新修大阪市史』第六卷(大阪市、一九九四年)「大阪市教育会の再興」に四十四万六二〇〇余人とある。四十万人以上の入場が報告されている博覧会でありながら、本博覧会についての報告は限られていることで、忘却された博覧会となつてしまったのかもしれない。

(3) 詳細については拙稿「臨幸記念名家秘藏品展覧会」の開催と鴻池家による秘蔵品の出品」(『大阪歴史博物館研究紀要』第十二号、二〇一四年二月)を参照されたい。

なお、鴻池合資会社資料室蔵「博覧会出品扣」は明治三十六年(一九〇三)から大正十四年(一九二五)まで用いられた出品記録帳である。

(4) 関西教育博覧会の案内書に大久保透『関西教育博覧会記念』(有信社、一九一三年)がある。本書の例言には「盛装後の光景を描かんが為め、特に其発行の期日を遅延せしも白状すれば事多くは高遠なる専門の部門に属し、見ただけのこと筆に上すべくもあらず、又強記述せんには紙数膨大に失するの虞れあるを以て特に其概要を摘み、観者記録の料に止めんとす、幸に諒せよ。」とあり、発行は博覧会開催期間中の八月三日であった。大阪府内務部編『商工立志資料』(大阪府内務部、一九一三年)は関西教育博覧会に

設けられた「大阪商工立志資料室」への出品記録である。

(5) 「大阪毎日新聞」大正二年八月十六日付記事(傍線は筆写)には次のように記し速報値として伝えているが、『新修大阪市史』第六巻で報告された「四十四万六二〇〇余人」が実数に近いと考えるべきだろう。

● 教博の最終日 開会以来第一の賑ひ

開会以来無類の好評を博し日を経るまゝに入場者の数を加へて早くも三十万、四十万と称へ居たる関西教育博覧会の最終日は実に開会以来最大多数の入場者を迎へ非常の大景気を以て閉会したり、当日は前夜の雨喜びに農村の男女がウンと詰めかけたと盆の天王寺参りが早朝より流れ込みたと最終といふに惶で、押しかけた人々を迎へたることなれば夕方過ぎるころ既に三万を呼ばれたるが閉会時の十時には優に五万を過ぎたりと噂されたり、これにて開会三十日間の入場者総数実に五十万を超えたる訳なるが細別すれば直売切符数二十五万余、ルナパーク共通券三万余、団隊入場切符約十萬、館外予売数約五萬、無料入場者約六万余に達し会期中の三十日間は素より準備の二十余日を通じて一回の雨天もなかりしは重ねぐの好都合なりしといふべし

(6) 大阪市教育会については、前掲書『新修大阪市史』第六巻収載「大阪市教育会の成立」、学制統一問題については、同書「大阪市教育会の再興」ならびに大阪市東区学事研究会編・発行『大阪市学制統一問題』(一九一七年)を参照されたい。

(7) 会長である肝付兼行(一八五三〜一九二二)は海軍大学校長などを歴任した軍人で、第五代大阪市長。明治四十年(一九〇七)男爵、同四十四年(一九一〇)貴族院議員となった。大正二年(一九一三)一月十七日に第五代大阪市長に就任したが、教博開催中の同年八月一日に辞任している。

鴻池善右衛門(一八六五〜一九三一)は鴻池家十一代当主幸方。明治十七年(一八八四)家督。第十三国立銀行頭取、大阪倉庫社長、日本生命保険社長、大阪貯蓄銀行頭取を歴任。明治三十年(一八九七)には鴻池銀行を設立した。

住友友純(一八六五〜一九二六)は住友家十五代当主。号は春翠。東山天皇六世孫で、明治二十五年(一八九二)二十九歳の時に住友家の養嗣子となり、翌年家督。明治二十八年(一九〇五)には住友銀行を創設。

藤田平太郎(一八六九〜一九四〇)は藤田財閥の二代総帥。号は江雪。父は藤田伝三郎(一八四一〜一九二二)。大正七年(一九一八)貴族院議員となった。

なお、「京都大学総長 久原躬弦」(一八五六〜一九一九)の役職は「京都帝国大学総長」の誤り。明治四十五年五月十三日に就任した。久原躬弦(一八五六〜一九一九)は一高等学校(東京大学教養学部の前身)校長、京都帝国大学(京都大学の前身)理工科大学長、総長などを歴任した科学者・教育者である。久原の任を継ぎ、大正二年(一九一三)五月九日に第五代京都帝国大学総長となったのが澤柳政太郎(一八六五〜一九二七)である。澤柳は、文部官僚から教育者として活動、のちに貴族院議員となった人物。小学校令の改正によって現在の六年課程としたほか、奈良女子高等師範学校、東北帝国大学、九州帝国大学の創設を決定した。総長就任の翌年春、「澤柳事件」によって大学を追われた。

(8) 賛助員の中には京都帝国大学法科大学教授・法科大学長から第四代京都市長(一九一三〜一九二六)などを歴任した井上密(一八六七〜一九一六)、洋画家で住友家とも関わりの深い鹿子木孟郎(一八七四〜一九四二)、大阪で鉄道・紡績・電気事業などを展開し大阪府会議員・衆議院議員を歴任した浮田桂造(一八四六〜一九二七)、明治十年代から大阪で欧米諸国向けの輸出品として薩摩焼の製作と販売をおこなった藪政七(銘・明山、一八五三〜一九三四)などの名が見える。

(9) 「大阪毎日新聞」大正二年七月二十五日付記事に、大阪毎日新聞社主催の「飛行機講演会」の案内が掲載されるほか、大正二年七月二十八日付同新聞には「教育博覧会の飛行機デー」と題した記事が掲載され、前日の七月二十七日に開催された教育博覧会の飛行機デーについて報告している。

(10) 前掲『商工立志資料』参照。

序文の全文は以下のとおり。

大正二年七月関西教育博覧会ノ開設ニ方リ大阪商工家ニシテ名ヲ成シ家ヲ興シタル故人ノ立志時代ニ於ケル勞苦ヲ偲フニ足ルヘキ物及ヒ故人ノ手ニ成レル家憲、家訓、遺墨ノ外写真肖像画並ニ各種ノ遺愛品等ヲ一室ニ陳列シテ之ヲ立志資料室ト名ケ以テ後進奨励ノ一助ヲラシメントセリ。今是等ノ資料ニ解説ヲ附シ之ヲ刊行シテ頒ツ所以ハ一ハ以テ故人ノ遺徳ヲ仰キ一ハ以テ感奮興起ノ資トナサントスルニ在リ読者微意ノアル所ヲ諒トセハ余ノ欣幸トスル所ナリ。／ 大正二年九月／ 大久保利武

(11) 大久保利武は、大久保利通の三男。鴻池合資会社資料室蔵「博覧会出品扣」に名前が挙がっている大久保利和（一八五九〜一九四五）は利武の長兄（のちの養父）であるが大府知事に在任した事実はない。『講談社 日本人名大辞典』、上田正昭ほか著、講談社、二〇〇一年。『新編日本の歴代知事』歴代知事編纂会編、歴代知事編纂会、一九九一年

(12) 前掲書『関西教育博覧会記念』によると、本資料室への出品については「大久保知事自ら之が蒐集に努力せられたので、秘したる家憲も、珍藏せる書類等も此処に公開せられて一般の目に映ずる」ところとなつたと記される。

(13) 拙稿「『臨幸記念名家秘藏品展覧会』の開催と鴻池家による秘藏品の出品」にて報告したとおり、婦人館に出品された「襦袢」は「樺色地紋綸子」「熨斗目織朱子腰熨斗目」「紋綸子疋田絞縫」の三領で、「紋綸子疋田絞縫」は平成九年度（一九九七）に鴻池家より大阪市へ寄贈された「赤地几帳文繡絞振袖」と推定できるものの「樺色地紋綸子」「熨斗目織朱子腰熨斗目」に該当作品の特定は難しい。

(14) 江戸堀高等女学校は明治四十四年（一九一一）三月に設立された江戸堀高等女学校として創立され、同年四月西区の大阪市立第一女子手芸学校で開校した。初代校長がここに登場する畠田繁太郎である。大正三年（一九一四）七月に新築中であつた木造校舎が竣工し、西区市岡町（現在の港区波除二丁目）に

移転、九月には大阪府立市岡高等女学校と改称している。

(15) 後々田寿徳「大阪博物館―「楽園」の盛衰」、『東北芸術工科大学紀要』第十六号収載、二〇〇九年

(16) 詳細については前掲論文「臨幸記念名家秘藏品展覧会」の開催と鴻池家による秘藏品の出品」を参照されたい。

(17) 大阪の三男爵家はともに明治四十四年（一九一一）八月に男爵に叙せられた。なお、藤田平太郎は父である藤田伝三郎が明治四十五年（一九一二）に死去したことに伴つての襲爵。

(18) 前掲『関西教育博覧会記念』参照。

(19) 前掲『商工立志資料』参照。

(20) 「メセナ (mecenat)」とは、「即効的な販売促進・広告宣伝効果を求めるのではなく、社会貢献の一環として行う芸術文化支援」という意味。「メセナ」は多岐にわたる芸術および文化の分野で行われる活動として受容、認識されつつある。

(21) 前掲論文「臨幸記念名家秘藏品展覧会」の開催と鴻池家による秘藏品の出品」参照。



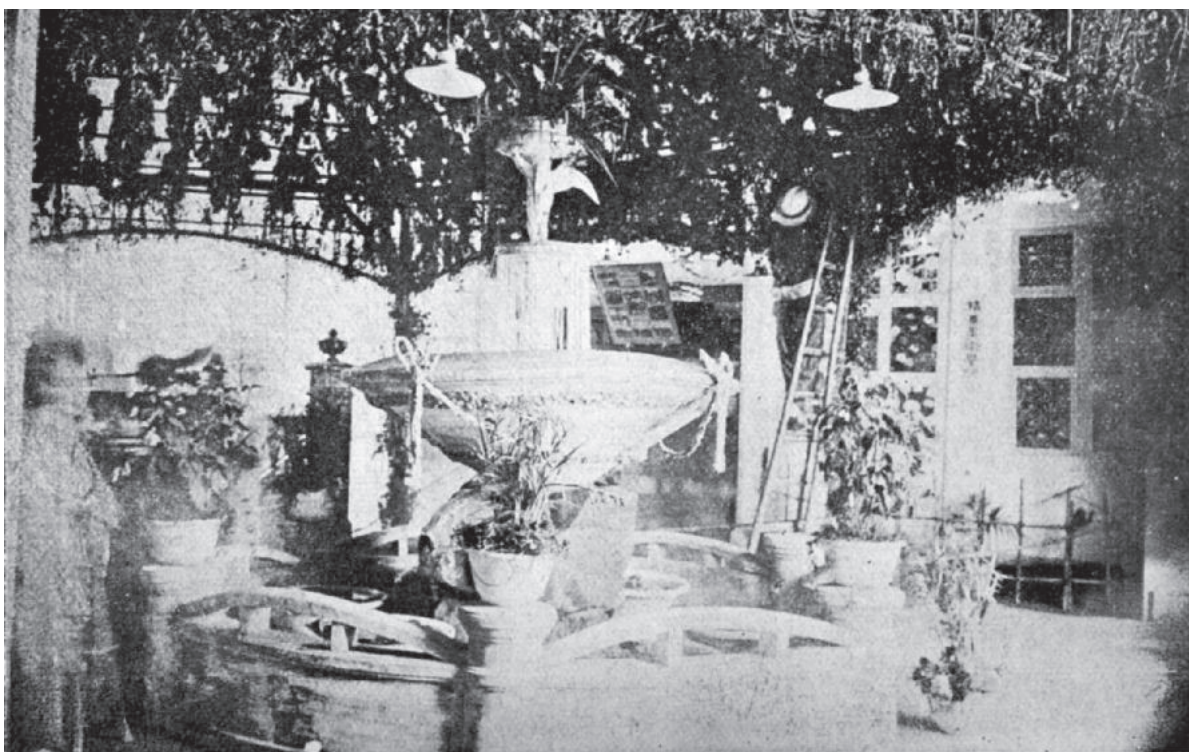
写真① 関西教育博覧会場の全景（『関西教育博覧会記念』、大阪市立図書館蔵より）



写真② 附属館（勸業館）（『関西教育博覧会記念』、大阪市立図書館蔵より）

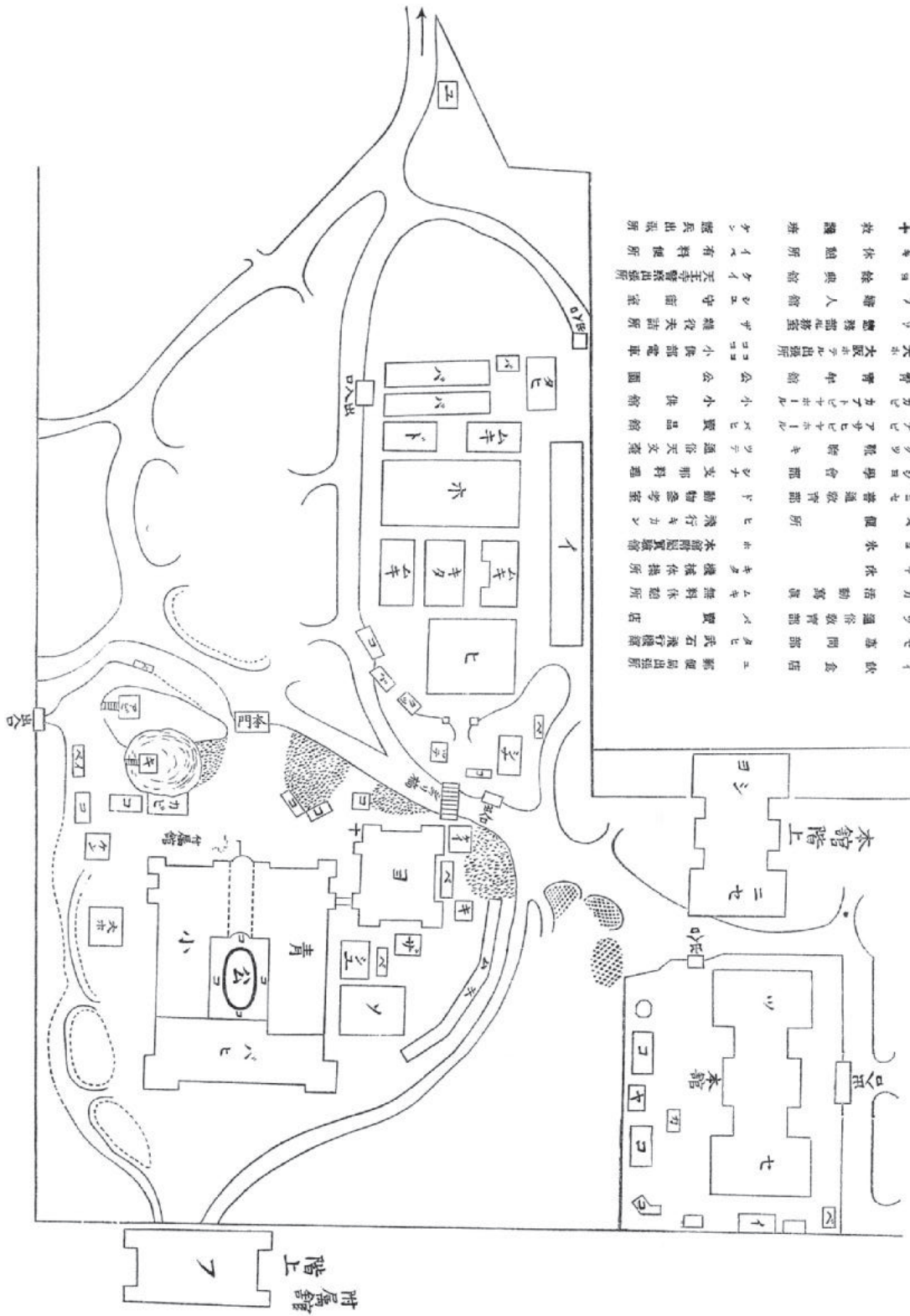


写真③ 本館夜景イルミネーション (『関西教育博覧会絵はがき』、大阪市立図書館蔵より)



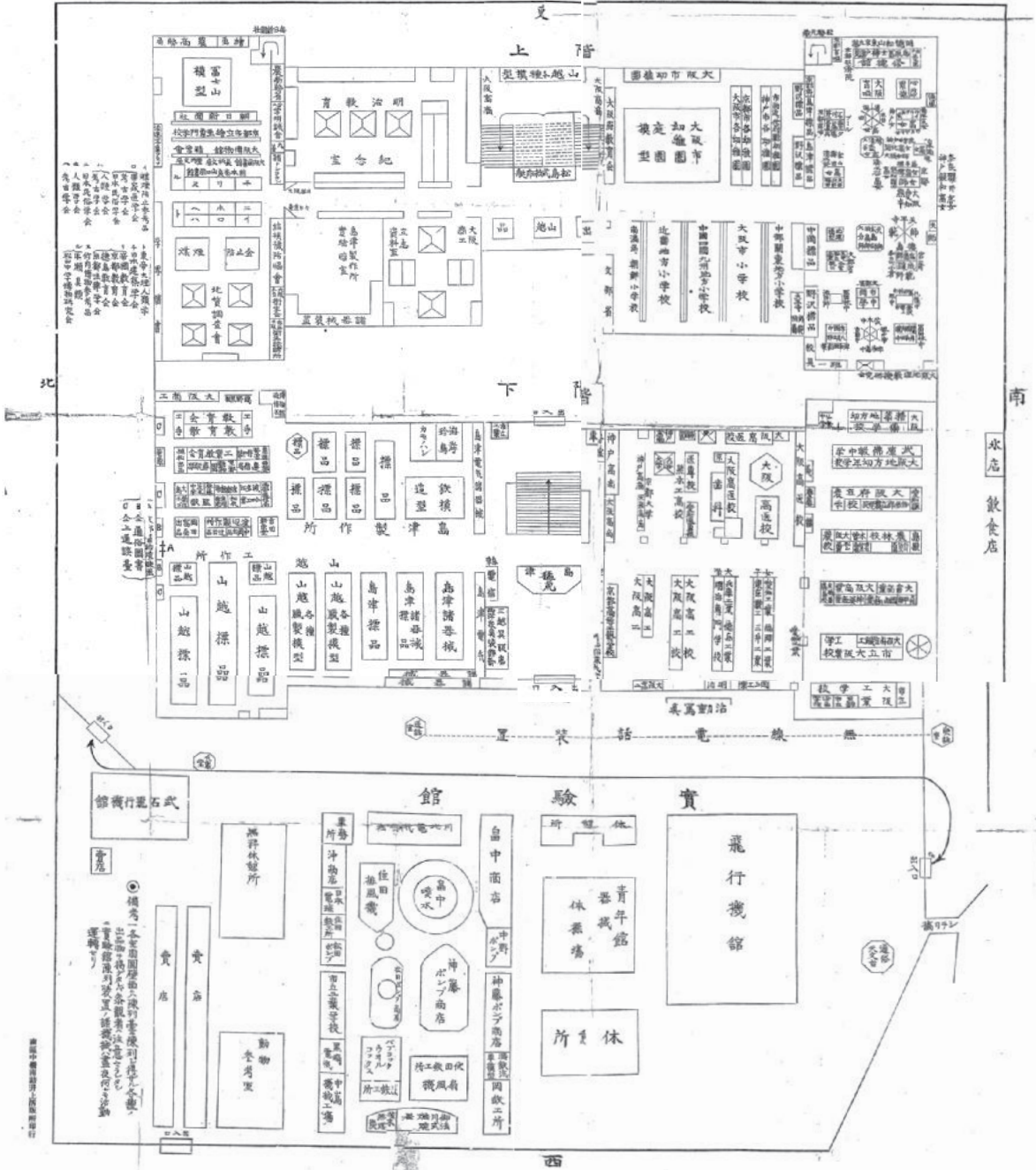
写真④ 婦人館内花の家と香水噴水 (『関西教育博覧会記念』、大阪市立図書館蔵より)

關西教育博覽會場各場圖



關西教育博覽會會場略圖
 (『關西教育博覽會記念』、大阪府立中之島図書館蔵より)

關西教育博覽會本館及附屬實驗館圖



關西教育博覽會本館及附屬實驗館圖
 (『關西教育博覽會記念』、大阪府立中之島図書館蔵より)

商工立志資料室出品明細表

掲載順	所蔵	出品資料	点数	掲載順	所蔵	出品資料	点数
1	男爵鴻池家	鴻池善右衛門宗信所持の腰差	1	13	五代龍作氏	五代友厚肖像	1
		鴻池新田開墾地図	1			同自筆画	1
		惣寄合申合書	1			磯野八右衛門の肖像	1
		鴻池善右衛門宗信の書簡	1			田中市兵衛肖像画	1
		同上筆 家訓	1			同上筆扇額	1
2	男爵住友家	住友家祖師西手束	1	16	尼崎伊三郎氏	敲器	1
		鉢山用尻敷	1	17	大阪高等商業学校	安井文書 二冊	2
3	男爵藤田家	藤田家座右銘	1	18	堺市役所	糸の乱記	1
		習字本	1	河村瑞賢関連資料			
		殿村茂清編三家和歌集 吉冊	1	小金澤久吉氏	瑞賢木像の写真	1	
		同上 稿本 七冊	7	東陽寺(東京浅草)	重野博士選碑文	1	
4	七品殿村三七男氏	草垣内文稿	1	19	河村義済氏	瑞賢位牌の写真	1
		同 長歌稿	1			雲■(門力) 釈師の画像	1
		和歌短冊の軸	1			香炉	1
		和歌懐紙の軸	1			花瓶	1
		家法金言録	1			観音像	1
		平瀬家壁書	1			大般若經	1
		福田六右衛門妻仲子の肖像	1			唐木塔	1
5	黒崎奈良之助氏	算盤	1	舍利塔	1		
		綿帽子型	1	印塔	1		
		石崎米喜肖像	1	瑞賢墓碑の写真	1		
6	福田六次郎氏	同所持の木槌	1	建長寺(神奈川県鎌倉)			
		坐右の銘	1	瑞賢長子の墓碑の写真	1		
		糸杵	1	学問所来歴 一巻	1		
		逸見佐兵衛自筆の画	1	懷徳堂定約附記 一冊	1		
7	石崎喜兵衛氏	赤渡申家屋鋪之事	1	懷徳堂内事記 一冊	1		
		奉公人請状之事	1	懷徳堂外事記 一冊	1		
		手形	1	安永七年の壁書	1		
		印形箱	1	懷徳堂木額	1		
		印鑑帖	1	中井履軒肖像	1		
8	生島喜蔵氏	将棋盤	1	木司令	1		
		藤本莊太郎の肖像	1	硯	1		
		段通織場の絵巻物	1	螺鈿珠盤	1		
9	逸見佐兵衛氏	白山善五郎自筆画	1	竹聯 一双	1		
		芝川又平写真	1	字字瓦	1		
10	藤本信栄氏	同自筆牡丹の額	1	懷徳堂義金簿 一冊	1		
		同自筆菓子盆磨出花鳥時絵	1	懷徳堂助成金簿 一冊	1		
11	白山善五郎氏	同上鹿背山焼竹鶴絵小皿	1	萬年先生論孟首章講義 一冊	1		
		同上鹿背山焼祥瑞写水指	1	中井竹山肖像	1		
		同上鹿背山焼祥瑞写水指	1	白鹿洞学規	1		
12	芝川又右衛門氏	同上鹿背山焼祥瑞写水指	1				
		同上鹿背山焼祥瑞写水指	1				
20	懷徳堂関連資料					瑞賢木像の写真	1
						重野博士選碑文	1
						瑞賢位牌の写真	1
						雲■(門力) 釈師の画像	1
						香炉	1
						花瓶	1
						観音像	1
						大般若經	1
						唐木塔	1
						舍利塔	1
				印塔	1		
				瑞賢墓碑の写真	1		
				瑞賢長子の墓碑の写真	1		
				学問所来歴 一巻	1		
				懷徳堂定約附記 一冊	1		
				懷徳堂内事記 一冊	1		
				懷徳堂外事記 一冊	1		
				安永七年の壁書	1		
				懷徳堂木額	1		
				中井履軒肖像	1		
				木司令	1		
				硯	1		
				螺鈿珠盤	1		
				竹聯 一双	1		
				字字瓦	1		
				懷徳堂義金簿 一冊	1		
				懷徳堂助成金簿 一冊	1		
				萬年先生論孟首章講義 一冊	1		
				中井竹山肖像	1		
				白鹿洞学規	1		

Holding of the Kansai Educational Expo and the Relationship of Osaka's Distinguished Families

NAKANO Tomoko

This is a report on the "Kansai Education Expo" held in Tennoji Park in Osaka City in the summer of 1913. This exposition was a significant exposition as the first exposition in Japan with the theme of "education" as the theme. However, until now, little attention has been paid. Therefore, there are few studies and reports on this exposition. Therefore, in this paper, we will investigate and report on the history of the "Kansai Educational Expo" and the organization and the outline of the exhibition projects held at the exposition. In addition, we examined how the "distinguished families" in Osaka was involved in the "Kansai Educational Expo".

